

第28回特別展解説書

わか やま きょう りゅう
和歌山に恐竜がいたころ
はく あ き ぜん き か せき だい しゅう ころ
—白亜紀前期の化石大集合—

湯浅町産恐竜の歯の化石

へいせい 19 ねん に、ゆ あさちょう から 発見 された 和歌山 県 初の 恐竜 化石。
たった 1 本の 歯 の 化石 ですが、白亜 紀 前期 の 和歌山 にも 恐竜 が いた こと を 証明 する 重要な 証拠 です。

2010

和歌山県立自然博物館



約1億3000万年前の和歌山 原画：小原志津子

- ①～③アンモナイト(詳しくは2～4ページ) ④オウムガイ(5ページ) ⑤ペレムナイト(5ページ) ⑥～⑨二枚貝(6～7ページ) ⑩巻貝(8ページ) ⑪～⑬甲殻類(9ページ) ⑭ウミユリ ⑮ウニ(9ページ) ⑯サメ(10ページ) ⑰首長竜 ⑱翼竜(10ページ) ⑳㉑恐竜(11ページ) ㉒植物(12～13ページ)

・白亜紀前期はどんな時代？

白亜紀前期とは、今から約1億4550万年～9960万年前の期間のことです(裏表紙参照)。陸上には恐竜が大繁栄し、森林には主としてシダ植物と裸子植物(ソテツ類やイチョウ類など)が繁茂していました。被子植物(現在よく見られるような花を咲かせる植物)が現れたのはこの時代ですが、他のさまざまな生きものにおいても、原始的なグループから現代型グループへの移行期間になっている例が数多く見られるので、生物の進化史上重要な時代と言えます。

白亜紀前期の気候は、現在よりも地球全体が温暖で湿潤な環境にあったようです。最も温暖化した時期では現在よりも10℃以上気温が高く、北極や南極にも氷がなかったと考えられています。

・白亜紀前期の日本

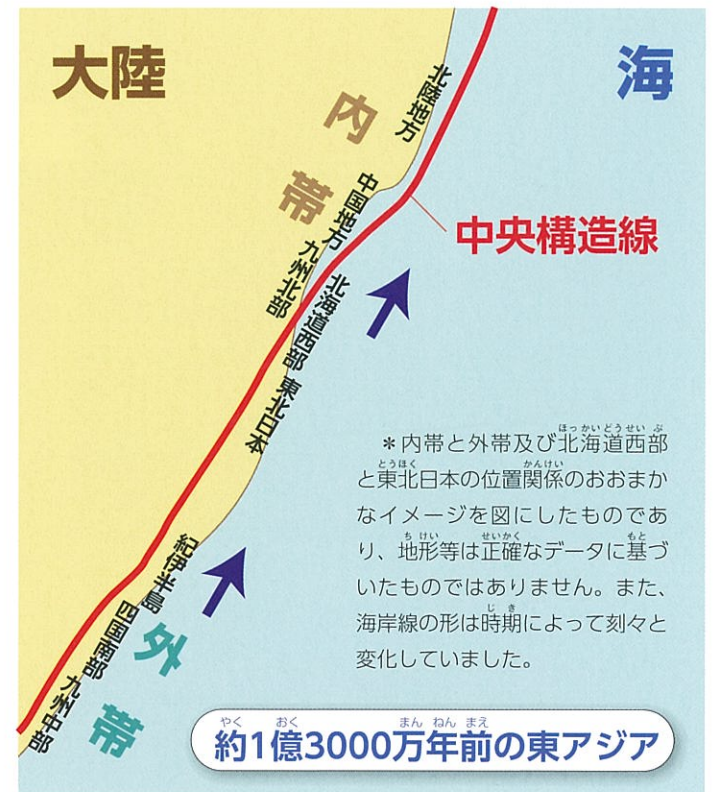
約1億3000万年前の日本は現在のような列島ではなく、アジア大陸の東のほしにありました。西南日本は2つに分割された状態で、中央構造線より南側の外帯(関東以西の太平洋側)と、北側の内帯(北陸地方～九州北部)は1000km近くはなれていました。

大陸のより内陸側に位置していた内帯には森林や湿地、湖沼が広がっていたのに対して、沿岸部の外帯はつねに海に面していました。紀伊半島の南部はまだ存在せず、海岸線は湯浅町や広川町のある有田部のあたりにあったのです。左ページの復元画は当時の和歌山の様子を描いたもので、水深は40mぐらいを想定しています。まだ和歌山の地層からは化石が発見されていない生きものの姿もありますが、これらの化石も将来的には発見されるだろうという期待を込めて描いています。

それでは次ページより、この復元画の元になった化石や、当時の和歌山の生きものの姿、暮らしについて紹介しましょう。

中央構造線

日本最大級の大断層で、時代ごとに異なる動きをしながら現在でも活動を続けている。白亜紀には水平横ずれ運動が活発化し、外帯を1000km近く北東へと移動させた。



*内帯と外帯及び北海道西部と東北日本の位置関係のおおまかなイメージを図にしたものであり、地形等は正確なデータに基づいたものではありません。また、海岸線の形は時期によって刻々と変化していました。

約1億3000万年前の東アジア